

私は今回の東京大学見学会企業大学訪問で将来に続く道をぼんやりとだが認識することができた。なにか明確になりたい職業がきまったわけではないが、将来どのような道を進んでいくにしろ必要なこと高校一年生の今からでも私たちにできることがなにかを今回の体験で学んだのだ。今回の様々な体験のなかでこのように私を成長させてくれたのはディレクトフォースの皆様との話し合いによるものである。ディレクトフォースの皆様との話し合いでは本当に様々な経験をしてきた方の素晴らしい話を聞くことができた。

最初に私たちの班で話をしてくださったのは田部揆一郎様という方だった。田部様はアメリカのマサチューセッツ工科大学を卒業しており、海外で仕事をするうえで大切なことなどを中心に話してくださった。やはり海外では英語を話したり読み書きする能力は必要不可欠なものであるらしく、英語を習得するにはどのような方法がよいのかも教えていただいた。それは英語の本を読むことだという、英語に慣れることが大事なのだ。よくテレビでやっているような英会話講座もあるが、あれでは不十分でありしっかりとコミュニケーションはとれないという。また、海外に留学をするのはとてもいいことであり、考え方が広がり教養を深めることができるのだそうだ。そこで私は田部さんに英語のことに關してある一つの質問をした。(英語で話している時、相手の英語を聞いて一度それを日本語に頭のなかで訳してから理解しているのか、それとも英語は英語のまま理解しているのか) という質問である。田部さんは、最初は日本語に訳して理解していたそうだが段々と翻訳をせずに英語は英語で理解し、応答できるようになると答えてくださった。私は英語が苦手だ。だが、田部さんの話を聞いて将来自分の行きたい道に進むためには必ず英語の能力が必要になってくると確信した。苦手などと逃げていてはダメなのだと感じ、もっと英語の勉強を頑張ろうと思った。手始めに学校の図書館などで英語の絵本などを読むことから始めていこうと思う。また、田部様には言語に關すること以外にも海外で大切なことを教えてくださった。国内外問わず仕事をするうえで健康な体は非常に大事と田部様は繰り返し強調していた。健康を害しては仕事なんて手につかなくなってしまうのだそうだ。私は田部様の話を聞いて海外というものを話を聞く前より身近に感じ興味をとっても持ったが、まだ海外へ行くことへの不安は拭いきれなかった。文化の違いというものには私は怖かったのだ。海外では環境はもちろんのこと食事や、なにを面白いと思いなにを嫌だと思ふのかという感じ方も日本とは大きく違うのだろう。自分が認められないのではないかとということが怖かった。すると田部様は日本とは考え方が違うものにぶつかったとき柔軟に対応することが大切であると教えてくださった。私はこの言葉を聞いて自分は認めてもらいたいならまずは自分から歩み寄っていかねばならないのだということに気づくことができた。まずは相手のことをよく知ったうえで自分がどんな人間であるかを知ってもらうためのコミュニケーション能力を鍛えていきたいと思い、やはり海外の方とのコミュニケーションを円滑にするためには相手と同じ言葉で話すことが重要であると感じた。英語の重要性を再確認することができた。

次に話してくださったのは村上悠平様という方だった。村上様は外務省経済連携課で TPP の交渉、外務省告別開発協力第一課で政府開発援助業務などを担当していた経歴を持っており、人生を生きて行くうえでの心構えを中心に話してくださった。私が事前に考えていた質問に(これまでに就いた職業はこどもの頃かなりたかかったものなのか、そうでなければいつごろからそういった職業に就こうと考えたのか) というものがある。村上様は最初の問いにいいえといったあと小さい頃は小説家になりたかったと答えてくださった。私は少し驚いてしまった。実際に村上

様が就いた職業との共通点があるようには思えなかったからである。さらに村上様は続けて二つ目の問いに答えてくださった。大学で見つけたのだそうだ。大学では仕事にもつながる自分の人生のテーマを見つけることができるのだとも教えてくださった。私は内心この言葉を聞いて安心した。私は進路をどうしていいのか全く見当もついていなかったが、大学在学中に志始めたとしても村上様のような素晴らしい職に就くことができるとわかったからである。だからといって今の高校生活をおろそかにしてはいけないということも十分に理解している。大学で道をきめることができるといっても自分の能力がそれに追いつかなければその道に進むことはできない。だから私は進路を焦って決めるのではなく今の高校生活は自分の能力を高める大学に向けての準備期間だと思って日々勉強や運動に勤しんで行こうと思った。自分の人生のテーマがなんなのかということとはとても知りたいので大学がより楽しみになった。村上様は仕事をしていくうえで必要な心構えに「正解がないものに取り組まなくてははいけない」といっていた。私は大人になって仕事をしていくということの厳しさを突きつけられたような感じがした。私は今高校で正解がある問題にとりくんでいる。それでも十分に大変だと思っていた。だが問題を解いていく手順が決まっているというのはとても優しい条件だったのだと村上様の話聞いて思った。正解がない問題にどう手をつけたらいいものか今の私には予想もできない。たとえ解き始めたとしてもそのさきに答えがあるとは限らない。少し大人になりたいと思った。村上様は「一人でなんとかしなければいけないときもある、それが辛くも楽しくもある」といっていた。まだ私には村上様がいて楽しいがなんでなのかさっぱりわからない、どう考えても辛いだけとしか思えないのだ。それはきっとまだまだ私がこどもであるということなのだろう、年齢だけ重ねて形式上だけの大人になど私はなりたくない。本当の意味で大人になれるように努力していこうと村上様の話聞いて強く決意した。

そして今回のディレクトフォースの皆様との話し合いの中で最も印象に残っているのが日本財団に勤めている田代純様との話し合いである。田代様は日本財団がどういった事業を行っているのかや資金はどうしているのか、実際現場ではどういったことがおきているのかなどを教えてください。そんな説明のなかで田代様は日本財団は支援する人を支援していて、やりがいは誰かが助かる仕組みを作れることであるといった。私はそのやりがいの部分にとっても惹かれた。初めて自分の人生をかけてでもやってみたいと思えたのだ。まだ日本財団に絶対入るという強い気持ちがあるわけではないが、自分のやりたいことを見つけることができたという点では大きな成長を遂げることができたと思っている。それに必ずしも私のやりたいことが今回みつけることができたものだけであるとは限らない、視野を広く持って他の可能性をゆっくりとみつめていきたい。このように、ディレクトフォースの皆様との話し合いは今の私にとってとても有意義なものであった。実際に数々の苦難を乗り越え簡単には体験できない経験をしてきた大人の皆様の話聞くことができたのは自分にとって大きなプラスになった。今ぼんやりと見えてきた将来への道を一步一步しっかりと踏みしめながら着実に進んでいきたいと思う。